



しらかべ通信 No.2

倉敷市立倉敷東小学校

令和8年 5月26日

5年生は、4月30日・5月1日に海の学習に行きました。雨の中での研修ではありましたが、カッター研修も無事に行うことができました。重い「かい」を動かすことや全体の動きがそろわないことに苦戦していましたが、クラス全員が声を出し合い、周りを気に掛けることで、最後は先生の掛け声がない中でもカッターを進めることができました。また、自分たちで活動予定を確認し、考えながら行動することができたことも、大きな成長であると感じています。これからの学校生活でも学年目標「合5GO→」を合言葉に、たくさんの場面で協力し合うことができるようにしたいです。

5年生



通級指導教室



倉敷東小学校には、通級指導教室と幼児指導教室があります。「つうきゅう」と呼んでいます。他の小学校や幼稚園、保育園から来ている子どもたちを合わせて約160人の子どもたちが、週1回通っています。

たくさん子どもたちがそれぞれのめあてをもち、成長につながるよう頑張っています。

「待つ」という愛情を 一緒に

校長 藤野 博

新年度の緊張感もすっかりほぐれ、学校では子どもたちの素の顔が見えるようになってきました。と同時に、家庭では、「早く準備しなさい。」「いつまでゲームをしているの。」「宿題はやったの?」と、つい声を荒げてしまう場面が増えていませんか。大人が激しい言葉で威圧することや、子どもの尊厳を傷つけるような言動には、一時的な効果はあったとしても…。

このような言動の多くは、その根底に「この子には失敗してほしくない。」「自立してほしい。」という切実な思いがあると思います。ただ、その思いが「先回り」や「過干渉」という形で行き過ぎてしまうと、子どもから「自分で選ぶチャンス」を奪ってしまいます。

何ごとも、自分で決めた結果うまくいかなくて困ったり、後悔したりするプロセスこそが「学び」です。学校の「学び」も基本的には同じプロセスをたどります。準備が遅れて自分が焦る、忘れ物をして困る。そんなとき「言ったとおりでしょ」と突き放すのではなく、「次はどうすればいいと思う?」と解決の糸口を子どもに委ねてみる。この「待つ」という姿勢が、自尊心を育む大きなカギとなります。

見守りの距離感は一入ひとり違います。でも、一人ひとりの試行錯誤にできる限り寄り添いながら、その成長を見守りたいと思っています。学校と家庭とが一緒になって、頑張りましょう!

